# 就職作品 Break Targets

京都大学 工学部 工業化学科 岡田成広史

## 自己紹介

学校•学部名:京都大学工学部工業化学科

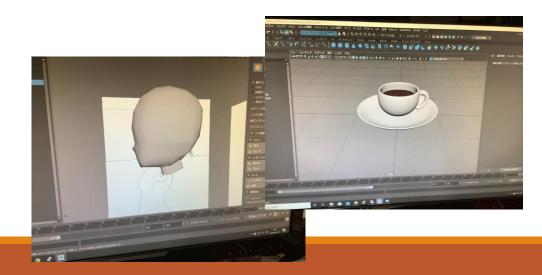
名前:岡田成広史(おかだ まさとし)

趣味:プログラミング、ギター、イラスト制作

特技:独学(プログラミングも独学で身に着けました)

好きな分野:基礎的な技術、主にグラフィックス関連の技術に興味があり、シェーダーの勉強を

したり最近はモデリングに挑戦しています。



# ゲーム概要

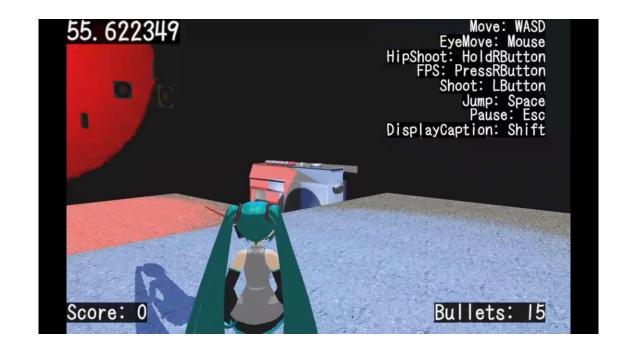
射的を行うTPSゲーム(プレイ動画: https://youtu.be/orsCCMyu-8Y)

使用API・ライブラリ

- Direct3D12
- XAudio2
- Windows.h
- ∘ Imguiライブラリ(デバッグ用)
- Nlohmann/json(JSONパースライブラリ)

#### 使用ツール

- Visual Studio Community 2019
- PIX on Windows(デバッグ用)



# 目的

DirectXを用いたフルスクラッチ開発

コンポーネント志向で動く簡易ゲームエンジンの実装

# コンポーネント志向の実現

シーンオブジェクトから子オブジェクトに向かって再帰的に更新

SceneObject::Update(float)の返り値で次に遷移するシーンを決める(Program1参照)

Object::Update(float)でそれぞれの持っているコンポーネントを更新(図1参照)

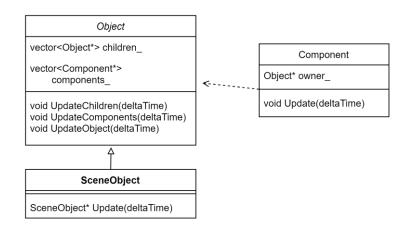


図1. オブジェクト関係のクラス図

```
nextScene_ = sceneObject_->Update(deltaTime);
if (sceneObject_ != nextScene_) {
//シーンが遷移しているなら今のシーンは解放する
delete sceneObject_;
sceneObject_ = nextScene_;
}
Program1. Game. cpp内
```

# コンポーネントの例

ColliderComponent:衝突判定用基底クラス

- AABBColliderComponent
- CapsuleColliderComponent
- OBBColliderComponent
- LineColliderComponent

MeshComponent:3Dモデル表示・アニメーション用

AudioComponent:音楽再生用コンポーネント

E.t.c.

#### ColliderComponent

衝突形状を囲むAABBで判定

衝突していたら形状によってオーバーライドされた関数で判定

衝突解決とObjectのOnCollision()を呼ぶ(Program2参照)

Program2. PhysicsSystem.cpp内

#### MeshComponent

PMDファイル、または頂点配列を読み込み DirectX12により表示

VMDファイルを読み込みフレーム補間した モーションを再生

モーション遷移は遷移線と遷移フラグによって 管理可能

モーション間のつなぎ目の補間が可能 (Program3参照)

視錘台カリングによる高速化

```
if (isTransiting) {
//遷移補間中
rFrameNo = -transitFrameNum;//前のモーションを補間につかう
rQuaternion = forMotionData_[bonemot.first].quaternion;
rOffset = forMotionData [bonemot.first].offset;
motit = mots. begin()://今のモーションの最初のキーフレーム
//線形補間の係数を取得
auto t = static cast<float>(frameNo - rFrameNo)
/ static cast<float>(motit->frameNo - rFrameNo);
//ベジェ曲線状の係数を求める
t = GetYFromXOnBezier(t, motit->p1, motit->p2, 15);
//線形補間を行う
                    Program3. MeshComponent.cpp内
```

#### AudioComponent

WAVファイルを読み込み、XAudio2により再生

フェード再生、3Dオーディオ、リバーブ、 各種パスフィルター機能の実装

XAudio2の機能を隠蔽し、AudioEventという ハンドラクラスを通して操作できる(Program4参照)

```
class AudioComponent {
...
    void SetLoop(bool loop) {
        audioEvent_. SetLoop(loop);
        }
...
private:
    AudioEvent audioEvent_;
...
};
Program4. AudioComponent.h内
```

#### Direct3D12を用いた開発

Direct3D関連のコードはDx12Wrapper,ModelLoader,Renderer内に隠蔽

ファイル名、位置、回転情報から自動的にレンダリング

DirectXMathを数学ライブラリとして使うために XMFLOATを継承したVectorを使用(Program5参照)

- XMFLOATは演算子がなくXMVECTORとの変換も不便
- 全体でXMFLOATの継承クラスを使うことで DirectXとの値の受け渡しが楽に!

```
//XMFLOAT3
class Vector3:public XMFLOAT3
{
public:
    Vector3() = default;
    Vector3(float x, float y, float z) {
        this->x = x; this->y = y; this->z = z;
    }
    Vector3(const XMVECTOR& xmvec) {
        XMVECTOR tmp = xmvec;
        XMStoreFloat3(this, tmp);
    }
    Vector3(const XMFLOAT3& xf) {
        this->x = xf.x; this->y = xf.y; this->z = xf.z;
    }
...
```

Program5: XMFLOAT\_Helper.h内

#### Shader開発

シャドウマップによる影の表示(BasicPixelShade.hlsl)

スフィアマップ,ノーマルマップとAOマップに対応(BasicPixelShade.hlsl)

コントラスト調整,ビネット効果のポストエフェクト(BoardPixelShader.hlsl)

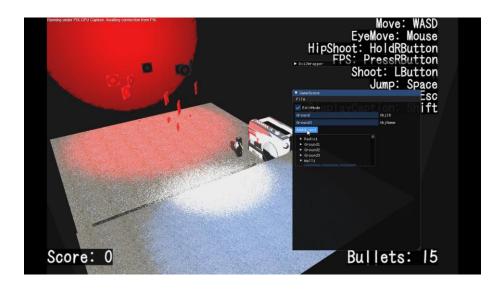
Zbufferを用いたディファードレンダリングによる複数光源のライティング計算 (ZBuffPixelShader.hlsl)

### ステージエディット機能

デバッグモードのみ視覚的にステージを構築可能 (動画: https://youtu.be/0XS1iscjbKg 参照)

ステージ情報をJSON形式で管理(Program6参照)

ステージセーブ、ロードが可能



画像1. デバッグビルドの画面

Program6: JSONによるステージの管理

# その他実装したもの

InputSystem.h :WinAPIから入力判定を取得

CameraComponent.h:オブジェクトをカメラとして扱う

SpriteComponent.h:スクリーン座標上に画像表示

PointLightComponent.h:オブジェクトを点光源として扱う

MoveComponent.h:オブジェクトの速度などの設定

ranking.dat:スコア上位5位の読み込み、書き込み(ResultSceneObject.cpp内)

# お借りした素材

「【MMD】移動モーションv1.3」むつごろう様 https://bowlroll.net/file/154665

「レーザーガン.pmx」しろつき様

「モノラルラジカセ.pmx」 MIN 様

「初音ミク.pmd」MMD付属モデル作成者:あにまさ様

土・コンクリート PolyHeaven

使用フォント: 「Kゴシック」作成者: ケイ様

https://k-gothic-font.hatenablog.com/

使用SE: 効果音ラボ 様

使用BGM: 魔王魂 様